兵庫消防

発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人　岸　谷　義　雄
題字　井　戸　知　事

忘れてない？
サイフにスマホに
火の確認

平成三〇年度　日本消防協会定例表彰式

平成三一年三月五日（火）日本消防会館ニッショーホールにて、第七一回日本消防協会定例表彰式が挙行されました。

表彰式の様子

会場には、全国から出席した受章関係者や来賓の方々が参列し、特別功労章及び表彰「まとい」、特別表彰旗以下代表受章者に対し、秋本日本消防協会長から受章団体及び個人へ表彰状等が授与されました。

本県における受章者（団体）は以下のとおりです。

○表彰旗（一団）
猪名川町消防団
三田市消防団

○竿頭綬（三団）
太子町消防団
姫路市夢前町消防団

○功績章（四一名）
神戸市東灘消防団　副分団長　井場　幸治
神戸市灘消防団　分団長　下西　直子
神戸市兵庫消防団　副団長　髙田　央
姫路市飾磨消防団　分団長　吉田　達生
姫路市家島町消防団　分団長　中川　晶則
尼崎市消防団　副団長　杉山　正
明石市消防団　分団長　日置　正己
西宮市消防団　分団長　出口　勇一
洲本市消防団　分団長　高津　範明
芦屋市消防団　分団長　中野　克彦
伊丹市消防団　部長　倉島　正佳
相生市消防団　分団長　宇田　典男
豊岡市竹野消防団　副団長　大野　伸治
加古川市消防団　副団長　花房　景造
赤穂市消防団　分団長　福本　博之
西脇市消防団　副団長　北口　龍矢
宝塚市消防団　分団長　小東　晶
三木市消防団　副団長　大畑　忠士
高砂市消防団　分団長　松下　和雄
川西市消防団　団員　隈部　治
小野市消防団　分団長　吉田　泰之
三田市消防団　副分団長　小林　秀行
加西市消防団　分団長　大橋　正勝
篠山市消防団　副団長　木戸　隆弘
養父市消防団　副団長　城下　稔幸
丹波市消防団　副団長　青木　拓也
南あわじ市消防団　副団長　井上　英樹
朝来市消防団　副団長　谷垣　貢
淡路市消防団　副団長　原　一平
宍粟市消防団　副団長　金本己世始
たつの市消防団　副団長　三輪　康博
加東市消防団　分団長　上月　一朗
猪名川町消防団　副分団長　井上　明広
多可町消防団　副団長　松田　孝之
稲美町消防団　分団長　魚住　修司
市川町消防団　副団長　柴田　和司
太子町消防団　団員　角南　博之
上郡町消防団　班長　坂田　景生
佐用町消防団　分団長　片山　博司
香美町消防団　副団長　橋本　昭弘
丹波市消防団　分団長　足立佳菜子

○精績章（一〇〇名）
神戸市東灘消防団　分団長　小林　元彦
神戸市北消防団　団員　安井　良平
〃　芝野　昌二
〃　中芝　尚史
神戸市垂水消防団　副団長　森本　喜久
神戸市西消防団　副団長　伊須原　透
〃　水島　俊英
神戸市水上消防団　副団長　山本　明生
姫路市姫路東消防団　副団長　加藤　久明
分団長　川口　弘
〃　八杉年志雄
姫路市姫路西消防団　分団長　加集　重利
〃　川島　勝
姫路市飾磨消防団　分団長　中井　博
姫路市家島町消防団　分団長　中谷　正人
尼崎市消防団　分団長　川端　征二
〃　吉井　賢
明石市消防団　部長　石井　元彦
〃　日置　敏広
西宮市消防団　分団長　喜田　高生
洲本市消防団　分団長　奥田　幸男
〃　戎　貞治
〃　堂内　充
芦屋市消防団　班長　福井　利道
伊丹市消防団　班長　中村　雅光
相生市消防団　副団長　池田　勲
豊岡市豊岡消防団　分団長　小﨑　哲男
豊岡市日高消防団　副団長　河本　壮平
豊岡市出石消防団　副団長　福冨　和昭
豊岡市但東消防団　分団長　近本　昌博
加古川市消防団　分団長　田中　輝人
〃　西山　保夫
〃　宮脇　秀史
赤穂市消防団　分団長　島津　和正
西脇市消防団　分団長　眞田　誠一
副分団長　村上　雄三
宝塚市消防団　分団長　上　達哉
三木市消防団　分団長　永塩　有
団員　服部　成秀
〃　高崎　展宏
高砂市消防団　副分団長　松本　伸明
〃　長谷川喜之
川西市消防団　団員　森田　政義
小野市消防団　分団長　倉橋　一恵
副分団長　岡田ひろみ
三田市消防団　副分団長　春日　敏和
加西市消防団　分団長　友井　聖仁
〃　東郷　正嗣
〃　後藤　克宜
篠山市消防団　分団長　西垣　貴司
〃　九鬼　雅寛
〃　後藤　典将
養父市消防団　副団長　小橋　透
分団長　片芝　康登
〃　五島　尚行
丹波市消防団　副団長　婦木　正俊
分団長　菊本　文則
〃　依田　雅弘
〃　西山　敏彦
南あわじ市消防団　副団長　立花　巧
〃　荒木　義久
〃　久保田康民
〃　武岡　康智
〃　宮本　芳幸
朝来市消防団　副団長　足立　智義
分団長　秋田　純一
淡路市消防団　副団長　空處　満
〃　宮本　敦司
分団長　鉢谷　敦弘
〃　片山　昇次
宍粟市消防団　副団長　荒尾　直樹
〃　飯田　浩二
〃　谷口　嘉則
たつの市消防団　分団長　恒藤　昭
〃　賀川　賢一
〃　松川　直樹
加東市消防団　副分団長　土肥　千稔
団員　堀田　敬文
〃　松本　道宏
猪名川町消防団　団員　八瀬林　肇

（次ページに続く）

多可町消防団
副団長　藤井　正樹
分団長　芝　和征
〃　西田　伝宏
播磨町消防団
分団長　櫻井　俊成
稲美町消防団
分団長　小中　一弘
副分団長　小林　剛
福崎町消防団
副団長　安積　一郎
市川町消防団
副団長　山下顕太郎
神河町消防団
副団長　井上　昇三
〃　中野　卓弥
太子町消防団
団員　八幡　陽介
上郡町消防団
副分団長　田中　秀和
佐用町消防団
分団長　棒谷　鉄也
〃　尾﨑　琢也
香美町消防団
分団長　福井　一雄
団員　武田　幸夫
新温泉町消防団
分団長　小椋　満
〃　井上　賢治
豊岡市豊岡消防団
団員　上坂　深雪
豊岡市出石消防団
団員　山内　順子

○勤続章（二四六名）

神戸市東灘消防団
分団長　橋詰　剛
〃　藤本　正
神戸市灘消防団
班長　岩谷　輝明
神戸市中央消防団
分団長　二宮　義徳
〃　山崎　忠雄
副分団長　皆本　恭男
部長　栗林　敬一
団員　田山　利哉
神戸市兵庫消防団
班長　大田　均

神戸市北消防団
副団長　辻元　泰輔
分団長　藤原　道夫
〃　辻　明男
〃　岡村　廣一
〃　澤田　郁生
班長　藤本　卓磨
団員　林　達也
〃　前切　敬一
〃　南家　浩太
〃　南前　隆司
〃　四鬼　邦郎
〃　阪口　浩一
〃　樋町　昌志
〃　藤浦　覚
〃　松田　次郎
〃　上田　敏行
〃　前田　正二
〃　藤原　達人
〃　樋口　毅
〃　藤本　泰弘
〃　小路　賢一
〃　下浦　正敏
〃　山口　貴久
〃　柿田　雅由
〃　山垣　政晴
〃　荒堀　嘉之
〃　岩下　充宏
〃　仲東　伸和
〃　坊ヶ内一成
〃　善入　康雄
〃　田中　修
〃　内垣　映二
〃　宮崎　公良
〃　中西　淳治
〃　白阪　肇
〃　日原　一幸
〃　橋本　昌浩
神戸市長田消防団
団員　北山　千秋
〃　花房　浩治
神戸市須磨消防団
分団長　前田　尚紀
団員　岡田　治之
〃　小林　利雄
神戸市垂水消防団
分団長　前田　武保

神戸市西消防団
部長　鳥井　秀記
団員　竹内　基恭
〃　山本　正裕
〃　河井　昭喜
姫路市姫路東消防団
副団長　加藤　久明
分団長　八杉年志雄
〃　中安　徳和
部長　北村　陽一
〃　長谷川順次
〃　岡野　秀則
団員　松田　洋一
姫路市姫路西消防団
分団長　今宿　良昭
〃　伊田　孝
〃　黒崎　利彦
〃　宮西　伸佳
副分団長　千古　修
姫路市飾磨消防団
分団長　室田　幸辰
部長　髙井　和彦
姫路市飾磨消防団
部長　山根　康道
〃　髙濱　光生
〃　三木　一浩
姫路市網干消防団
副分団長　宇田　忠生
部長　長澤　稔
姫路市夢前町消防団
部長　井寄　秀明
班長　山本　信之
団員　中野　真一
姫路市安富町消防団
団員　本長　敏美
尼崎市消防団
分団長　西田　進二
副分団長　山内　和彦
〃　水谷　幸治
部長　宮本　健司
〃　吉田　嘉久
班長　長谷川伸夫
〃　岸添　和義
〃　重田　正明
団員　中野　稔晃
〃　山口　直樹
〃　西原　宏志
〃　井出　一人

団員　中村　泰夫
〃　山田　伸嘉
〃　玉井　重次
明石市消防団
副分団長　岸　数彦
団員　岡本　明之
〃　寺岡　宏樹
西宮市消防団
分団長　西　隆司
副分団長　岡田　芳明
〃　古塚　正治
〃　山本　隆之
部長　中務　敏彦
班長　水取　一
洲本市消防団
団員　内藤　英五
〃　山口　宜伸
〃　谷　泰秀
芦屋市消防団
団員　岡本　謙一
伊丹市消防団
分団長　佐々木信一
部長　矢野　幸男
班長　若木　秀栄
〃　阪上　芳孝
団員　石橋　耕
相生市消防団
副分団長　志茂　邦彦
部長　金治　幸一
班長　桑原　義典
豊岡市豊岡消防団
副分団長　嶋田　政希
班長　小田垣琢一
豊岡市城崎消防団
分団長　細口　寛恭
副分団長　今井　博和
班長　岩本　辰夫
豊岡市竹野消防団
副分団長　橋本　忠明
部長　古保　博之
団員　小林　忠彦
豊岡市但東消防団
団員　本田　敏
加古川市消防団
分団長　岸本　一郎
〃　西山　保夫
副分団長　道清　昭
副分団長　坂田　桂助

部長　藤原　邦高
班長　田中　直輝
赤穂市消防団
分団長　萩原　俊宏
〃　木虎　知己
部長　堀池　武司
〃　西崎　辰哉
班長　水漏　一声
〃　長部　道広
団員　花田　恭治
〃　木村　秀雄
〃　横田　健
西脇市消防団
副団長　藤原　久和
部長　内橋　正雄
宝塚市消防団
分団長　西田　勝
団員　久保　副武
〃　福本　和幸
〃　今中陽一郎
三木市消防団
分団長　中口　博
団員　福地　武史
〃　平石　光則
〃　戸田　喜之
〃　國井　利昭
〃　岸本　友孝
〃　岩見　信孝
〃　岡田　勇
〃　下内　良則
〃　川上　憲二
〃　安居　伸一
〃　中西　弘樹
高砂市消防団
班長　西垣　誠
団員　前野　浩一
団員　石田　真一
川西市消防団
副分団長　芝田　俊和
班長　佐渡　誠
小野市消防団
副団長　小林　直基
副分団長　澤口　浩幸
班長　坂田　光雄
三田市消防団
副団長　中田　文雄
分団長　仲内　孝
〃　大田　賢章

副分団長　小林　秀行
団員　藤森　学
〃　稲角　利彦
〃　畑末　宏
〃　尾栢　稔
養父市消防団
副団長　上田　英和
分団長　大林　勝幸
部長　小野山　修
〃　松田　一良
班長　児島　和之
〃　小谷　敏宏
団員　角野　昭男
〃　中村　秀仁
〃　岡　義勝
〃　西村　省一
〃　城下　嘉和
〃　山崎　光夫
〃　北山　輝彦
〃　山口　真紀
〃　村上　光輝
〃　守田　喜好
丹波市消防団
団員　南　和男
南あわじ市消防団
団員　池本　純一
〃　大谷日出人
朝来市消防団
副団長　谷口　孝博
副分団長　和田　浩作
淡路市消防団
班長　森　茂
宍粟市消防団
団長　安原　勝則
たつの市消防団
分団長　乾　義信
副分団長　佐藤　義隆
〃　野口　泰永
〃　坪田　博文
〃　南村　光彦
〃　出田　勇夫
班長　幾島　茂樹
〃　堀　裕一郎
団員　山本　一巳
〃　井戸　敏幹
〃　野間　幸男
〃　二井上眞喜

加東市消防団
団員　松井　直人
〃　藤井　哲也
猪名川町消防団
分団長　乾　洋一
団員　有家　正直
〃　福中　祥章
〃　中田　昌秀
〃　本上　正人
〃　眞田　孝治
〃　井上　幸浩
播磨町消防団
部長　鳥越　秀幸
稲美町消防団
副団長　田口　稔洋
分団長　大西　理司
太子町消防団
団員　廣岡　稔巳
上郡町消防団
副分団長　山本　正利
佐用町消防団
分団長　香嶋　昭仁
団員　春名　茂
〃　内山　賢真
〃　西浦　正明
〃　井上　輝明
〃　梶本　宏
〃　中井　慎也
〃　宇多　司
香美町消防団
分団長　田中　公雄
班長　井上　宏
団員　上治　紀仁
〃　村尾　要
〃　松井　重夫
〃　井上　厚美
〃　小谷　繁基
〃　中村　真人
〃　山本　良雄
新温泉町消防団
副分団長　石原　栄治
班長　伊賀　浩郁
団員　井上　諭
〃　馬場　聡
〃　中村　強
〃　山村　満彦
〃　井上　弘

平成三〇年度 消防庁長官表彰

県下三消防機関 一三〇名が受章

平成三一年三月六日（水）、平成三〇年度消防庁長官表彰式が日本消防会館内ニッショーホールにおいて盛大に執り行われました。

消防庁長官からの式辞に続き、長官から各受章者代表に表彰旗等が伝達されました。その後、日本消防協会会長及び全国消防長会会長から祝辞、受章者代表者謝辞の後、閉会しました。

また、功労章受章者の方々は午後から皇居内を参観されました。

県下の受章機関、受章者は次のとおりです。（敬称略・名簿順）

○表彰旗

神戸市水上消防団

○竿頭綬

明石市消防団
養父市消防団

式典の様子

表彰式典出席者の皆様

○功労章　一一名

西宮市消防局　消防正監　山下　俊郎
明石市消防局　消防正監　山本　徹
明石市消防局　消防監　上園　正人
明石市消防局　消防監　長谷川　健
神戸市消防局　消防監　福井　豊
神戸市消防局　消防監　森田　晃司
明石市消防局　消防司令長　上谷　節雄
明石市消防局　消防司令長　内山　満
神戸市消防局　消防司令長　田中　由人
明石市消防局　消防司令長　宮内日出夫
宝塚市消防団　団長　福井　仁

○永年勤続功労章　一一九名

宝塚市消防本部　消防監　足立　裕介
北はりま消防本部　消防監　石井　満
北はりま消防本部　消防監　清瀬　明彦
北はりま消防本部　消防監　友藤　豊造
姫路市消防局　消防監　永井　誠一
姫路市消防局　消防司令長　大塚　英二
三田市消防本部　消防司令長　大西　孝男
尼崎市消防局　消防司令長　岡村　和将
神戸市消防局　消防司令長　陰山　修治
神戸市消防局　消防司令長　木村　敏博
西はりま消防本部　消防司令長　栗岡　英夫
西はりま消防本部　消防司令長　桒名　一博
西はりま消防本部　消防司令長　小林　博之
西はりま消防本部　消防司令長　坂本　恵二
神戸市消防局　消防司令長　坂口　忠男
神戸市消防局　消防司令長　他谷　和巳
川西市消防本部　消防司令長　中川朝日出
姫路市消防局　消防司令長　中堀　敏樹
加古川市消防本部　消防司令長　福原　良久
宝塚市消防本部　消防司令長　堀川　真一
伊丹市消防局　消防司令長　六樂内英樹
淡路広域消防事務組合　消防本部　消防司令長　山下　正剛
加古川市消防本部　消防司令長　山名　高史
伊丹市消防局　消防司令長　山本三人次
明石市消防局　消防司令長　柚木　隆
豊岡市消防本部　消防司令長　吉谷　洋司
神戸市消防局　消防司令　稲岡　信吾
小野市消防本部　消防司令　井上　昭仁
赤穂市消防本部　消防司令　井上　靖久
神戸市消防局　消防司令　内山　敦司
猪名川町消防本部　消防司令　衛藤　浩司
高砂市消防本部　消防司令　大内　浩行
尼崎市消防局　消防司令　岡　大
神戸市消防局　消防司令　片平　幸喜
篠山市消防本部　消防司令　川崎　卓美
神戸市消防局　消防司令　木畑　卓也
三木市消防本部　消防司令　定　忠司
尼崎市消防局　消防司令　新垣　輝男
尼崎市消防局　消防司令　谷脇　宏司
南但消防本部　消防司令　中村　隆男
芦屋市消防本部　消防司令　灘本二三夫
西宮市消防局　消防司令　福井　克快
神戸市消防局　消防司令　北條　泰信
西宮市消防局　消防司令　増田　啓至
丹波市消防本部　消防司令　宮垣　浩
美方広域消防本部　消防司令　山居一二三
西宮市消防局　消防司令　横山　雅之
神戸市消防局　消防司令補　篠田　和宏
神戸市消防局　消防司令補　中西　義次
南あわじ市消防団　団長　細川　知大
加西市消防団　団長　山下　奉治
神戸市西消防団　副団長　岡崎　博史
佐用町消防団　副団長　梶本　正
西脇市消防団　副団長　田中　勝志
丹波市消防団　副団長　田中　守
神戸市北消防団　副団長　仲　克之
新温泉町消防団　副団長　中島　武
丹波市消防団　副団長　西垣　毅
新温泉町消防団　副団長　西村　亨
加古川市消防団　副団長　花房　景造
豊岡市出石消防団　副団長　福冨　和昭
朝来市消防団　副団長　藤原　順一
多可町消防団　副団長　松田　孝之
宍粟市消防団　副団長　松本　二郎
たつの市消防団　副団長　三輪　康博
姫路市飾磨消防団　副団長　安原　嘉男
小野市消防団　分団長　石井　祥悟
香美町消防団　分団長　石井　精一
淡路市消防団　分団長　石田　千晴
神戸市東灘消防団　分団長　伊地知義治
洲本市消防団　分団長　戎　貞治
神戸市兵庫消防団　分団長　大田　照一
豊岡市但東消防団　分団長　大橋　正嗣
淡路市消防団　分団長　片岡　伸介
淡路市消防団　分団長　片山　昇次
尼崎市消防団　分団長　川端　征二
洲本市消防団　分団長　倉本　孝志
姫路市姫路西消防団　分団長　見満　勇
伊丹市消防団　分団長　越村　勝朗
香美町消防団　分団長　小谷　佳和
養父市消防団　分団長　小谷　好広
明石市消防団　分団長　後藤　英文
神戸市長田消防団　分団長　住本　雅紀
神戸市垂水消防団　分団長　立花　靖志
加古川市消防団　分団長　田中　幸生
西宮市消防団　分団長　出口　勇一
神戸市灘消防団　分団長　堂内　克孝
姫路市姫路西消防団　分団長　東元　正彦
三田市消防団　分団長　仲内　孝
養父市消防団　分団長　中尾　貴幸
姫路市姫路東消防団　分団長　中安　徳和
養父市消防団　分団長　西木　智
西宮市消防団　分団長　西　隆司
豊岡市豊岡消防団　分団長　西原　廣見
赤穂市消防団　分団長　西側　幸一
神戸市中央消防団　分団長　二宮　義徳
加古川市消防団　分団長　東本　勝行
相生市消防団　分団長　平田　善規
神戸市須磨消防団　分団長　前田　尚紀
相生市消防団　分団長　松本　和彦
赤穂市消防団　分団長　松本　靖志
上郡町消防団　分団長　三浦　嘉之
尼崎市消防団　分団長　宮地　杉和
尼崎市消防団　分団長　宮本　章彦
養父市消防団　分団長　森本　勝
赤穂市消防団　分団長　山本　勝人
姫路市姫路西消防団　分団長　横内　章彦
尼崎市消防団　分団長　吉井　賢
宝塚市消防団　分団長　和田　淳一
猪名川町消防団　副分団長　井上　明広
高砂市消防団　副分団長　鎌田　弘和
新温泉町消防団　副分団長　仲村　千昭
高砂市消防団　副分団長　古田　輝信
猪名川町消防団　班長　井上　清隆
三木市消防団　団員　赤松　宏朗
太子町消防団　団員　井川　雅仁
川西市消防団　団員　今西　正夫
川西市消防団　団員　橋本　克司
猪名川町消防団　団員　橋本　光彦

栄えある受章、おめでとうございます。

平成三〇年度『ひょうご安全の日のつどい』開催！

平成三一年一月一七日（木）ＨＡＴ神戸ほかにて、ひょうご安全の日のつどいを開催しました。県では毎年、「―一・一七は忘れない―」「伝える」「活かす」「備える」をテーマに、災害文化を豊かにし、安全・安心社会の形成のために、ひょうご安全の日のつどいを開催しています。阪神・淡路大震災から二四年が経過し、震災を直接体験していない世代が増加することにより、震災の風化の進展が懸念されている中、昨年の大阪府北部地震や７月豪雨においても、都市交通機能の災害脆弱性や災害情報の伝達方法の課題等が明らかとなりました。次なる災害に備えるためにも、あの震災の経験と教訓を次世代に伝えていかなければなりません。当日は、①一・一七のつどい（追悼行事）、②一・一七ひょうごメモリアルウォーク二〇一九、③交流ひろば・ステージ、④防災訓練の四部構成で、五一〇〇人が参加しました。

【追悼行事・知事挨拶】

【1.17ひょうごメモリアルウォーク2019】

【交流ひろば入口】

【岡山県・倉敷災害復興PR(観光)】

【Bloom Worksミニライブ】

【避難訓練】

内容

①　一・一七のつどい（追悼行事）

阪神・淡路大震災の犠牲となられた方々への哀悼の誠を捧げるとともに、安全・安心な社会づくりに向けて歩む決意を国内外や次世代に発信。

②　一・一七ひょうごメモリアルウォーク二〇一九

阪神・淡路大震災から復興した街並みや震災モニュメントを巡り、風化しがちな防災意識を高めるとともに、大阪府北部地震で都市交通機能の災害脆弱性が顕在化したことを踏まえ、緊急時の避難路、救援路として整備された山手幹線等を歩く。

③　交流ひろば・ステージ

平成二三年の東日本大震災、平成二八年四月の熊本地震及び平成三〇年七月豪雨による被災地の復興を支援し、互いの交流の絆を深めるとともに、県民の防災・減災意識の向上を図るため、ＮＰＯやボランティアグループ、防災関係機関等による活動展示や炊き出し、体験型の防災・減災学習などを実施。

④　防災訓練

安全で安心な社会づくりをめざし、防災関係機関と連携した、県民参加による体験型の防災訓練を実施。

特色

①　通勤・旅行途上の公共交通機関途絶を想定したウォークの実施

・各企業等からＨＡＴ神戸を目指す途中、災害時伝言ダイヤル等を練習する企業等訓練ウォークの実施。

・ＪＩＣＡ研修員等の参加を呼びかけ、外国人観光客等を想定した避難ウォークの実施。

・災害時に水道水、トイレ、道路情報を提供するコンビニ等の「災害時帰宅支援ステーション」の場所やサービス内容のウォーク参加者への周知。

・エリアメールや防災アプリを活用した屋外における安全確認行動の実施。

②　防災啓発ステージの展開

震災の教訓と経験を次世代にわかりやすく伝えていくため、防災や復興支援をテーマに表現活動を実施している様々な個人・団体による、ステージイベントを実施する。

（主な内容）

・「Ｂｌｏｏｍ　Ｗｏｒｋｓ」、「あまゆーず」、「高石ともや」によるミニライブ

・一般財団法人日本気象協会と被災自治体のマスコットキャラクターによる防災クイズショー

③　東日本大震災、熊本地震、平成三〇年七月豪雨災害等の被災地の復興応援

東北（宮城県、福島県、岩手県）や熊本県、岡山県等の参加を得て、各被災地の観光復興ＰＲ及び復興の取組状況の紹介。

④　人と防災未来センターと連携した防災関連展示の実施

防災をテーマとしたポスターコンクールの入選作品の展示を行うほか、センター主催の阪神・淡路大震災をふり返る写真展、企画展「命を守る　さまざまな主体による初動対応」を実施する。

ひょうご安全の日のつどい

兵庫県消防協会として展示ブース出展を行い地域の方々へ消防団啓発活動実施

（公財）兵庫県消防協会事務局

震災二四年目を迎え、平成三一年一月一七日にひょうご安全の日のつどいが実施されました。

寒さ厳しい一日でしたが、県内各地で追悼行事やメモリアルウォーク、防災・減災意識の向上を図る交流広場やステージ、防災訓練などが実施され、多くの県民の皆さんが参加されました。

兵庫県消防協会もＨＡＴ神戸なぎさ公園内の交流広場に、この度初めて展示ブースを出展し、消防団の啓発及び消防団員募集活動を行いました。

展示ブースの前では、来場者へ消防団活動を分かりやすく説明したチラシを配布し、大きな声で消防団のＰＲを行いました。

展示ブース内では、阪神・淡路大震災当時の写真パネルや、兵庫県内の消防団がどのような活動を行っているかを紹介するパネルを展示し、消防団活動ＤＶＤもご覧いただきました。また、ブースへお越しいただいた方々には、携帯用ホイッスルを配布し大いに消防団をＰＲしました。

今まで県消防協会として、県民の皆さんと直接コミュニケーションを図る機会が無かったのですが、今回非常に多くの皆さんと交流を図ることができました。展示ブースをご覧になった方々から、「阪神・淡路大震災の時は、消防団に助けられた。」「住んでいる地域の消防団がいつも頑張ってくれている」というお話をお聞きすることができたり、「近所の方が消防団員だけど、どんな活動をしているの？」「消防団員と消防署の人ってどう違うの？」などのご質問をいただいたりもしました。中学生や高校生は、「消防団員になりたい。」「消防団員を目指している。」と言って、自ら『消防団員募集』のチラシを持ち帰ってくれる学生もいました。

この度の出展では、当協会のブースへ約四〇〇名の方々が訪れました。たくさんの方々に興味を持っていただき、消防団をＰＲする良い機会を持つことができました。また、当協会の展示ブースだけでなく、同じＨＡＴ神戸なぎさ公園内の交流ステージでは、播磨町消防団女性分団の皆さんが、防火・防災啓発劇を行い、子供からお年寄りまで、多くの方々へ防災意識の高揚を促し、来場者に楽しく学んでいただくことができました。

消防団員確保の第一歩は、「消防団」を知っていただくこと、「消防団の活動」を認識し、理解していただくことです。県消防協会として、今後とも消防団のＰＲに邁進してまいります。

【けすぞう参上！（播磨町消防団女性分団の啓発劇にて）】

【ご家族で展示をご覧いただきました】

【消火器の使い方（播磨町消防団女性分団の啓発劇にて）】

【中学生や高校生もブースを訪れました】

【当協会の展示ブース】

【展示ブースに来てくださった井戸知事と岸谷会長】

突撃取材

平成三〇年度女性消防団員技術研修会

（公財）兵庫県消防協会事務局

平成三一年二月一〇日（日）、兵庫県消防学校において、女性消防団員技術研修会を開催しました。

寒さ厳しい一日でしたが、県内から七一名の女性消防団員の皆さんが参加し、熱心に受講されました。

この度の研修会では、アウトドア流防災ガイドのあんどうりす先生をお招きし、講演と実技をご指導いただきました。「日常の身近なもので防災を実践すること。」「楽しく防災を学ぶこと。」を女性消防団員の皆さんに学んでいただき、それぞれの地域の方々へアウトプットしていただきたいという考えから、あんどう先生へ依頼しました。

あんどう先生は、阪神・淡路大震災の際、尼崎市で被災され、その時の被災体験とアウトドアの知識を活かし、二〇〇三年より全国で講演活動を展開しておられます。現在では当たり前となっている、「毎日のかばんを防災仕様に」というアイデアを当時から提案しておられ、とりわけ子育てグッズと防災グッズをイコールにしてしまう、アウトドア流の実践的な内容が好評で、年間一〇〇回以上の講演を全国各地で行っておられ、講演活動だけではなく、テレビ、新聞、ラジオなどへも多数出演され、防災活動の普及啓発に努めておられます。

午前中の講演では、日常使用しているバッグの中身を簡単に防災仕様にできること、日常生活で使用しているものが、災害時にも応用できること、オススメのアプリなども教えていただきました。また、災害時の赤ちゃんのミルクやおむつの話しなど、子育てを経験された方、子育て真っ最中の方にとっては、とても身近な内容も多く、お話を聞きながら、大きくうなずいたり、驚いたり、参加者の反応がとても大きかったのが印象的でした。さらに、先生が色々なグッズを持参してくださったので、実際に見て、触って知ることができ、参加者にとっては、より分かりやすかったようです。

【手は真上に伸ばすより横から伸ばすと遠くまで伸びます】

【さらしを使っておんぶに挑戦】

【あんどうりす先生】

【古武術で人を軽々起こすことができます】

【色々な消防団の方と自己紹介。まずは呼んで欲しい名前から】

【古武術で人を簡単に起こすことができます】

【筆保事務局長挨拶】

【赤ちゃんをさらしで包むと軽くなる?】

【重心を上にすると軽くなります】

【前後左右の方々とコミュニケーションをとります】

午後の実技では、さらしを使ったおんぶとだっこ、そして古武術を教えていただきました。さらしを使ったおんぶとだっこでは、重心を上にすること、さらしでくるむことで、実際よりも軽く持ち上げられることを実践し、知ることができました。古武術の手法については、子供や女性のような小さな力でも、大人を起き上がらせたり持ち上げたりできるということを、実際に体験しながら学びました。

あんどう先生の進行は明るくパワフルで、終始笑いの絶えない楽しい雰囲気の研修会でした。防災を難しく考えるのではなく、楽しみながら防災に取り組むことができることを教えていただきました。また、生活の身近なものの「しくみ」を知ることで「応用」できることを教えてくださいました。参加した女性消防団員の皆さんは、「元々あった固定観念を捨て、今後は応用出来るものは無いか意識して生活したい。」「わざわざの防災グッズではなく、普段使いの防災グッズを実践していきたい。」という感想が多く寄せられました。

日常生活ですぐに実践できることを教えていただけたので、参加者から「持ち帰って地域の方々に伝えたい」という感想をいただくことができました。

この度の研修会をとおし、女性消防団員の皆さんが、「簡単」に日常生活に防災を取り入れられることを学び、地域の方々へ広めてくださることで、ひとりひとりが防災について当たり前に取り組み、有事の際には自らの意志、判断で正しく行動することに繋がっていきます。

今後も、県消防協会では、「聞いて、見て、体験して」学べる研修会を企画していきたいと思います。積極的なご参加をお待ちしています。

また、二〇一九年八月下旬に、兵庫県女性消防団員活性化大会を企画しています。日頃の皆さまの活動について、発表してくださる消防団を募集しています。ご協力よろしくお願いします。

この度の研修会の参加消防団は以下のとおり。

・神戸市東灘消防団
・神戸市灘消防団
・神戸市中央消防団
・神戸市兵庫消防団
・神戸市北消防団
・神戸市長田消防団
・神戸市垂水消防団
・尼崎市消防団
・明石市消防団
・洲本市消防団
・伊丹市消防団
・豊岡市豊岡消防団
・豊岡市出石消防団
・加古川市消防団
・赤穂市消防団
・宝塚市消防団
・三木市消防団
・川西市消防団
・小野市消防団
・三田市消防団
・篠山市消防団
・丹波市消防団
・南あわじ市消防団
・猪名川町消防団
・播磨町消防団

以上女性消防団員　七一名。
他市町消防団事務局等二二名。

われら若手消防団員

～自分たちの地域（まち）は自分たちで守る～

豊岡市竹野消防団
第一分団
松岡　利昌

豊岡市竹野消防団第一分団は、豊岡市の中でも日本海に面した地区を担当しています。団員数は八七名、車両は消防ポンプ自動車一台、小型ポンプ付積載車一台の計二台が配備されており、竹野消防団の中では最大規模の分団です。

私は平成二三年六月に、当時の分団幹部に勧誘されたことがきっかけで入団しました。長男で、当時の勤務地は竹野町内であったことから、逃れられないものだと自分を納得させて入団しました。

しかし、入団してみると仕事以外ではあまり接する機会のなかった現役世代と繋がることができ、一緒になって消防団活動に従事できた経験は、かけがえのないものであると思います。

一般的に消防団といえば、火災時の消火活動を想像しますが、私が所属する分団の特徴的な活動には、花火大会の警戒活動があります。毎年七月三〇日、竹野浜海水浴場を舞台に「たけの海上花火大会」が開催されます。約五万人が来場する兵庫県下有数の花火大会です。地元警察、消防署と協力しながら、有事の際は迅速に行動できるよう人員と車両の配置をします。大会中に大きな事故なく満足して帰られる来場者を見ると、まちの一大イベントに消防団員として協力ができて、本当に良かったと思います。

「自分たちの地域（まち）は自分たちで守る」と消防団の行事ではよく言われています。この言葉を胸に刻み、地域コミュニティの一員であることを意識して、これからも消防団活動に努めていきたいと思います。

消火訓練において分団長の指示を受ける

消防団ピックアップ

Pick Up!

『自分たちのまちは自分たちで守る』

西宮市消防団

●西宮市の概要

西宮市は、兵庫県の南東部、大阪市と神戸市の中間地に位置し、南は大阪湾、北は六甲山地と接しており、人口は四八八，二四四人（平成三一年一月一日現在）、面積一〇〇・一八兵法キロメートルの中核市で、大都市圏に好アクセスできる利便性と自然に囲まれた良好な住環境、多くの大学・短期大学を有する教育環境から文教住宅都市として発展し『関西で住みたいまち』に挙げられています。

市内には、高校野球のメッカである阪神甲子園球場、開門神事福男選びで有名な西宮神社や音楽・演劇・バレエ等あらゆる舞台芸術を通して多くの人が集う兵庫県立芸術文化センターを有し、スポーツ芸術文化が色づく魅力ある街を形成しています。

西宮市消防団は、昭和二二年九月に発足し、現在は一本部七地区三三分団で構成され、総勢七一一名（平成三一年二月一日現在）が「自分たちのまちは自分たちで守る」との基本精神を胸に、火災や風水害などの災害対応、警戒巡視、地元の各種イベントへの参加・警戒等、地域防災の要として多岐に渡る活動に従事しています。

集合写真

こども消防士パレード

一斉放水

●西宮市消防出初式

市民が安心して暮らせる安全なまち「西宮」を目指し、本市消防力を集結、披露するとともに、市民が参加することによる防災意識の向上を図るため、毎年一月第一日曜日もしくは第二日曜日に、西宮市消防出初式を開催しています。

西宮市消防出初式では、消防局・消防団合わせて五五〇名を超える人員及び四四台の消防車が一堂に集結し、徒歩部隊分列行進、市長表彰、団長表彰等で構成される第一部と、こども消防士パレード、消防協力隊による小型ポンプ操法訓練、消防団車両二四台による一斉放水、はしご車等を使用した救助訓練、車両観閲を実施する第二部があります。

また、会場内では、西宮市消防局マスコットキャラクターであるうーちゃん、かんちゃんとの記念撮影や車両展示、水風船、アートバルーン等、子供達が楽しめるブースと、AEDコーナー、住宅火災警報器コーナー、阪神淡路大震災や東日本大震災の状況を撮影した写真コーナー等、防災意識の高揚に資するものを実施しています。

●西宮市消防団消防操法大会

複雑多様化・大規模化する各種災害に対処するため、消防団員としての一層の自覚と連帯意識を高め、消防技術の向上と士気の高揚を図ることを目的に、毎年三月第二日曜日に、西宮市消防団消防操法大会を実施しています。

各地区からの出場隊は、日頃から訓練を積み重ねており、毎年拮抗した戦いになっており、平成三〇年の大会では、瓦木分団が優勝しました。

分列行進

放水

『大切な〝ひと〟と〝まち〟を守るために』

上郡町消防団

上郡町は、兵庫県の南西部、岡山県との県境に位置する人口約一五，〇〇〇人の町です。古くから山陽と山陰を結ぶ交通の交差地として栄えてきました。豊富で綺麗な水源に恵まれており、夏場のアユ釣りとホタル観賞のスポットとしてよく知られています。

上郡町消防団は、団本部と、各地区を管轄する一九の基本分団、そして町内事業所による企業連携消防分団から構成され、団長以下約五〇〇名の団員が所属しています。

主な活動として、火災・災害への対応をはじめ、定例演習、予防警戒、操法大会、防災訓練指導、イベント警備など様々な業務に従事し、各団員は消防人としての意識の高揚と技能の研鑽に努め、地域防災力の確立に尽力しているところです。

しかし、昨今、消防団員の減少と高齢化が全国的な問題となっていますが、当町においても例外ではなく、団員の確保に大変苦慮しています。

また、現役の団員もその多くがサラリーマンであり、特に平日の緊急対応に支障をきたしつつあります。

最近を例にとりますと、昨年度は連続不審火に係る消火と予防警戒に連日出動し、今年度は豪雨や台風に係る水防活動に幾度も従事するなど、マンパワーの低下に水火災の多発が重なり、団員の負担に拍車がかかっている状況です。

そこで、これらの課題に対応するための取り組みとして、まず、平成二八年度より女性消防団員の募集を行い、本部団員として現在三名が入団し、主に行事運営や広報啓発などソフト面での活動に従事しています。

また、平日の団員不足をカバーするため、昨年度より機能別消防団員制度を導入し、前述の企業連携消防分団として、現在、四社・四一名にご協力をいただき、地域性や業種を活かした消防活動に従事しています。

他にも、国・県・町のあらゆる補助制度等を活用し、装備施設の更新拡充を行い、車両・物品の調達や屯所の改修は無論のこと、最近では、長年の念願であった消防団旗の更新が叶い、団の士気高揚につながっています。

このように、団員の減少が進む中においても、人的・物的・心的なあらゆる面での対策を進め、組織と機能の充実・活性化に努めているところです。

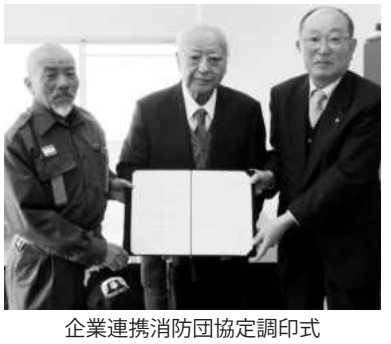
近年、地震や風水害、火山噴火、大規模火災など、全国的に災害が増加しており、自助・共助・公助の連携が叫ばれている中、消防団員は、自助における住民の模範として、また共助における地域の中核として、さらに公助の一翼を担う立場として、ますますその役割が重要になるものと感じております。

今後とも、気を引き締め、役場や自治会、常備消防と緊密に連携しつつ、消防団が一丸となり、我々の大切な〝ひと〟と〝まち〟を守るため、より一層精進して参ります。

平成30年度上郡町消防操法大会

消防車両納車

新団旗登壇（平成30年度消防出初式）


企業連携消防団協定調印式

消防屯所新築竣工

わが町の団長さん

「人望厚く、心も熱く」

朝来市消防団長　浅田　郁雄

朝来市消防団は、四支団、三二分団、団員数九九二名で活動しています。その要である浅田団長は、昭和五八年に消防団に入団され、平成三〇年四月に第五代団長に就任されました。

精肉店を経営される一方で、地元の区長や市連合区長会長を務められたほか、現在は市議会議員として多忙な日々を送られていますが、災害発生時にはいち早く現場に駆けつけ、的確な判断力や素晴らしい統率力により陣頭指揮をとられ、時には自ら初期消火や避難誘導にも当たられるなど、行動力に溢れる団長です。

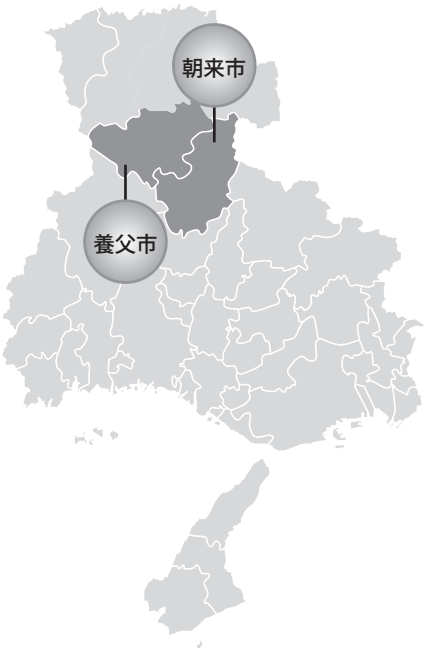
また、号令や訓示の際の、腹の底から響く声に現場の空気はより一層引き締まり、規律を重んじる姿勢には厳格さが漂いますが、団員に対しての気遣いを忘れない、優しい団長でもあります。人づきあいがよく、お酒は一滴も飲まれませんが、宴席などでは必ず最後まで周りの人と同様もしくはそれ以上に盛り上がって楽しまれています。

近年、消防団員の確保が難しい状況になりつつあり、一方で相次ぐ災害により防災における消防団の果たす役割が益々重要になる中で、消防技術の向上、予防消防、人材育成などといった活動に加え、社会環境の変化等に対応していくのは大変なことではありますが、地域の安全・安心のため、火災の無い、災害に強い朝来市を目指して邁進されています。

「消防組織力と地域防災力の強化を！」

養父市消防団長　稲葉　広之

養父市は県の北部中央にあり、県下最高峰で一，五一〇メートルの氷ノ山がそびえます。近くにはハチ高原や日本の滝百選に選定された天滝があり、夏は登山、冬はスキー・スノーボードで賑わう、自然に囲まれた地域です。



養父市消防団は平成一六年に旧四町の組織を引き継ぐ形で結団し、現在は四方面隊、五〇分団、定数一，三六〇人で消防団活動を行っています。

稲葉団長は昭和五二年に合併前の旧八鹿町消防団に入団し、平成三〇年四月、養父市消防団長に就任しました。平時の団長は誰とでも分け隔てなく笑顔で接する優しい人柄です。また、趣味も多彩で、サックス演奏やバイクツーリング（消防団幹部サークル有り）を定期的に楽しんでいます。そんな団長ですが、いざ有事となると顔つきが変わり、いち早く現場へ駆け付け、迅速かつ的確な判断により団員を指揮します。

団長は常日頃から消防操法や訓練礼式、資機材の点検などきめ細やかな指導で消防団員を育成し、消防団の組織力を強化するよう努められています。また、地域防災力を強化するため、消防本部、警察、自主防災組織などの関係機関と連携した訓練を積極的に行っています。

高齢化や過疎化により消防力の低下が懸念されていますが、養父市消防団は稲葉団長のもと一丸となって、住民の安心・安全を守るために災害に立ち向かいます。

がんばってます、女性消防団員

『夢あるまち姫路　地元の安全安心を守りたい』

姫路東消防団女性団員

私たち姫路東消防団女性団員は、平成二四年三月一日に姫路市初の女性消防団員として発足しました。

姫路市は、南は瀬戸内海に浮かぶ家島諸島、海岸線には工業地帯、姫路駅周辺は繁華街と世界文化遺産姫路城があり、北部は山岳地帯という、日本の縮図といわれる兵庫県においても、とりわけその特色を色濃く反映しているような市となっております。この中にある消防団も一市八団からなり、各団の分団数も二分団から二〇分団までとさまざまな規模があり多様性に富んでいます。

私たち姫路東消防団は姫路市の姫路城をはじめとした観光地や姫路駅周辺の繁華街といった中心地だけでなく、山間部や田園風景が広がる郊外も管轄となっております。それぞれの地域で特性が異なり、対応に苦慮することもありますが、日夜、姫路市の安全安心を守るために邁進しています。

消防団の主な年間行事は、出初式に始まり、火災予防運動や水防訓練、操法大会や総合防災訓練、年末火災特別警戒などとなっており、これらの行事に私たち女性消防団員も参加しています。それ以外にも、地域の防災訓練や普通救命講習などにも参加しています。また、私たちにしかできないことは何かを考え、「夢あるまち姫路～消防団ＶＥＲ～」という防火防災に関する歌を作成し、広報のために各種イベントなどで披露しています。

このように活動している私たちですが、現在は、姫路東消防団に五人、姫路西消防団に四人、飾磨消防団に六人、あわせて一五人となっています。

姫路東消防団は発足時の人数は五人、現在も五人在籍していますが、すべてが順風満帆に進んできたわけではありません。一時、二人が離脱し、三人で活動していた時期もありました。しかしながら勧誘活動や広報を精力的に行ってきたことで、現在では二人が新たに加入し、発足時と同じ五人で活動することができています。

「ちょっと興味があったから」、「旦那がたまたま消防団に入っていて声をかけられたから」、「なんとなく……」などなど、入団理由は各々違いますが、みんな「地元姫路市の安全安心を守りたい！」という熱い気持ちは同じです。家庭事情も違えば、考え方も違う、全てが相容れる存在ではありません。でもだからこそ、お互いに刺激し合うことでより女性消防団の活性化に繋がっていると思います。

最後に、先程述べた「夢あるまち姫路～消防団ＶＥＲ～」の歌詞を紹介したいと思います。

①　火災の時には　初期消火
あなたは消火器　使えますか
黄色のピンに　指をかけて
上へと引き抜き　ホースをはず
そう
火の根もと向け　はく様に
レバーを握り　噴射をしよう
明日につながる　幸せのため
②　地震の時には　慌てずに
落ち着き頭を　守ってください
安全の為の　第一歩
自分の体は　自分で守ろう
みんな声かけて　助け合おう
大事な物は　まとめておこう
一人一人の　命大事に
③　突然そばで　人が倒れたら
意識を確認　人を集めて
一一九番　ＡＥＤ探し
頼んで呼吸　確認しよう
意識ない時は　心肺蘇生
あなたもできる　救命の連鎖
ひとつの勇気が　つなぐ命に

私たち姫路東消防団女性団員はまだまだ人数も少なく、至らない点も多々あり、日々の努力が欠かせませんが、今後も「がんばってます、女性消防団員」の精神をモットーに励んでいきます。

歌にのせて心肺蘇生法を披露

地域のお知らせ

神戸市中央区

次世代に繋がる自主防災力強化を目指して

未曾有の被害をもたらした阪神・淡路大震災を機に、神戸市では、市民の自主防災力強化を目的とした、小学校区ごとの自主防災組織である「防災福祉コミュニティ」が結成され、地域独自の防災マップや防災マニュアルの作成、防災訓練を実施し、地域の防災力を高めています。

平成三一年一月一七日、神戸市内各地で震災の経験を若い世代に伝えるため、たくさんのイベントや防災訓練が実施されました。

神戸市中央区にある神戸市立湊翔楠中学校のグラウンドでも、橘地域防災福祉コミュニティが中心となり、地域住民や近隣の事業所が参加した防災訓練が行われ、神戸市中央消防団からも一五名が参加し訓練指導を行いました。

この防災訓練では、地域住民一三〇名全員によるシェイクアウト訓練（地震発生時に「まず低く、頭を守り、動かない」ことで身体を守る行動）、バケツリレー消火訓練、粉末消火器取り扱い訓練、煙が充満した通路の通り抜け体験訓練などが行われました。

シェイクアウト訓練

粉末消火器取り扱い訓練

また、この地域では中学生が主体の防災組織「神戸市東川崎防災ジュニアチーム」が活動しており、消防団員による指導のもと、防災ジュニアチームによる放水訓練も行われました。

この若い世代が一生懸命訓練に取り組む姿勢は、近い将来確実に起こるとされている「南海トラフ地震」に備えるための人材育成に繋がるものと確信しています。

今回の訓練のように、神戸市中央消防団が訓練指導を行い、地域住民とのコミュニケーションをとり、普段から顔の見える関係を築いていくことは、災害時の地域住民と消防団との連携に大きく貢献するものと期待しています。

この日、神戸市中央消防団は、阪神・淡路大震災の経験を生かし、次世代に繋がる自主防災力の強化に努めていかなければならないということと、地域防災のリーダーとしての役割を再確認しました。

訓練時の様子

加西市

ほんに加西は　よいところ

加西市は、兵庫県の南部、播州平野のほぼ中央に位置し、播磨内陸地域最大の平坦地を形成しています。緑豊かな自然と瀬戸内式の穏やかな気候に包まれ、歴史豊かな温かいまちです。

兵庫県下最古の塔として知られる国宝法華山一乗寺三重塔をはじめ、国指定重要文化財古法華の三尊石仏、酒見寺多宝塔、県・市指定文化財奥山寺多宝塔、住吉神社、五百羅漢石仏などがあり、数多くの訪問者を魅了しています。

市指定文化財「五百羅漢」

市の中心部から南東部へ北条鉄道が走り、各駅は歴史ある木造駅舎で、レールバスから見える景色は、田圃や山々がどこまでも続くのどかな風景が楽しめ、ゆっくりとした時間を過ごせます。

北条鉄道「レールバス」

市の南西部には、「加西アルプス」と呼ばれる山々が連なり、登山コースは、新日本歩く道一〇〇選にも認定され、露出した岩尾根や、吊り橋、鎖場など登山者を飽きさせることなく、頂上へと導き、山頂からは三六〇度の景色が楽しめ、晴れた日には明石海峡大橋や淡路島を望むことができます。

また、春には、播州三大祭りの一つである、一四基の屋台が勇壮華麗に練り歩き、鶏合わせ、龍王の舞、浦安の舞などの北条節句祭りが行われます。夏には、加西サイサイまつりが開催され、迫力あるステージパフォーマンスが繰り広げられ、フィナーレには、加西の夜空を彩る、鮮やかで壮大な花火が打ち上げられます。

加西サイサイまつり「花火」

伝統文化として、国重要無形民俗文化財「東光寺田遊び・鬼会」、国宝「玉丘古墳」を舞台に播磨国風土記「根日女伝説」を題材に、地元の子供達で結成する狂言塾は、全国に誇る狂言を継承しています。

長い歴史と、受け継がれた伝統、穏やかで豊かな四季を持つ気候風土、これらに培われてきたもの、そして、人、その全てをつなぐ「加西品質」を合言葉に加西の特産物として「ハリマ王にんにく」「加西ゴールデンベリーAA」加西のお米「根日女みらい」など数多くの商品を手がけています。

なかでも、有機栽培の加西ぶどうのおいしさをそのまま詰め込んだロゼワイン「RAKAN」は、とてもおいしいと評判の商品となっていますので、ぜひお試しください。

ロゼワイン「RAKAN」

最後に、当市では「中国自動車道加西インターチェンジ周辺の産業団地創出」「鶉野飛行場跡地の周辺整備」「北条市街地の活性化」の三大事業を行政、市民が一丸となって取り組んでいます。

中国自動車道加西インターチェンジ周辺の産業団地創出は、加西市産業振興に関する条例を制定し、若者や女性など全ての人が働きやすく、将来にわたって地域経済の持続可能性を高めることを目的に、就労支援、市内企業の運営支援など地域産業の発展への取り組みの一つです。

鶉野飛行場跡地は、「防災」「レクリエーション」「歴史遺産群」の三つに分け、加西市拠点施設として地域活性化施設を整備し、レプリカの展示や特産品の販売を予定しています。

また、北条市街地の活性化として、平成三〇年一二月一〇日に「ホテルルートイン加西　北条の宿」が開業しました。

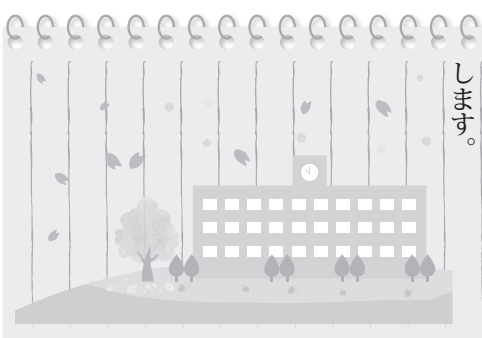
ホテルルートイン加西　北条の宿

このように、様々な事業を展開し、防災の基盤を堅め、未来を担う子供たちへ、ふるさと加西の発展のため、住みよいまちづくりを住民と共に目指しています。

ぜひ、加西市へお越しいただき、ご紹介した魅力をお楽しみください。

編集後記

日増しに暖かさを感じられるようになりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今月号では、日本消防協会定例表彰、平成三〇年度消防功労者消防庁長官表彰について掲載しております。表彰受賞者の皆様、誠におめでとうございます。

さて、今月号で平成三〇年度の兵庫消防は最終号となりました。来年度も紙面の充実に努めてまいりたいと思いますので、今後も「兵庫消防」のご愛読のほどよろしくお願いします。